

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690800012		
法人名	株式会社ユニマツそよ風(営利法人)		
事業所名	東山ケアセンターそよ風(桜)		
所在地	京都市東山区本町18丁目386-1		
自己評価作成日	平成24年10月5日	評価結果市町村受理日	平成25年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自立支援」を目標に日々のケアに努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2690800012-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年11月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは開設5年を迎え、徐々に利用者が重度化していく中でも利用者の安全に配慮しながらできる事や選ぶことを大切に、その人らしい暮らしを支援することに努めています。日々職員が意見を出しやすい雰囲気を作り、職員間のコミュニケーションが良くとられており、会議や申し送りノートを活用し意見や提案を行い、入浴や食事介助の方法についての意見が出され、ケアの質の向上に活かしています。また、家族の来訪時や運営推進会議、家族交流会等には、利用者やホームの様子を伝えながら意見や要望を言いやすいように配慮し、出された疑問や意見についての説明を行ったり、職員間で検討し取り組みに繋げています。定例の防災訓練に加え、地域の消防団と一緒にホームで地域の人と防災訓練を行ったり、地域の防災訓練にもできるだけ参加し地域との繋がりを大切にしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に参加者全員で、理念を唱和し、共有・確認し、理念に基づいた支援を行っている。また利用者様を地域から孤立させることなく「共生」を目標にし、地域社会の一員として生活して頂けるように努めている。	法人の理念及びホームの理念を掲げており、法人の理念は朝礼時に唱和し全職員に意識付けられています。利用者の尊厳や地域とのふれあいを大切に掲げられたホームの理念は玄関や事務所に掲示し、会議時に管理者が理念に沿ったケアとなるよう助言を行い、実践に繋げています。	ホームの理念が職員に充分浸透していないため、法人の理念だけではなくホームの理念を職員間で共有できるようにし、方向性を一つに取り組まれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や利用者様と一緒に回覧板を届けている。地域の古紙回収にも協力している。近隣へ買い物へ行き、地域の方々との交流を持っている。センターでの催し物に、地域の方々にも参加して頂いている。	自治会に加入し、敬老会や地区の運動会、地蔵盆等に参加しています。ホームの行事は、回覧板で地域の方に知らせ参加してもらっています。散歩や買い物に出かけた際には挨拶を交わしたり、鉢植えをもらうなどの交流を持っています。併設する施設に来ている中学生の体験学習を通して、ホームとも交流できるよう働きかけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事へ積極的に参加している。また事業所の主催する秋祭り等にて地域の方々にも参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた、ご意見等を職員一同把握し、サービスの質の向上に努めている。	会議は利用者や家族、地域包括支援センター職員、地域の方等の参加を得て、2か月に1回開催しています。ホームの活動を報告し、参加者と共に活動内容の評価を行い、様々な意見をもらっています。参加者からの質問は、その都度答えたり家族会で伝えています。出された意見に対しては、職員間で検討しサービスに活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告書を区役所へ届けに行っている。	日々の相談や問い合わせは電話で連絡を取り、行政も参加する事業所連絡会にできるだけ参加しています。運営推進会議の議事録を毎回区役所に持って行き、ホームの状況を伝えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会が設置されている。また勉強会も実施し理解を深めている。	会議の中で身体拘束についての勉強会を行い、わかりやすい資料や事例を通して職員全員に周知しています。拘束に繋がるような言葉かけがあれば、その時に問題提起をしたりミーティングで伝えています。玄関はテンキーになっており施錠していますが、外に行きたい様子が見られれば、一緒に出かけ拘束感のないよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施。入浴時等さりげなく身体の確認を行い、日々注意を払っている。		

東山ケアセンターそよ風（桜）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について勉強会を実施。今後も勉強会を実施し知識を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には原則2名体制で対応し、十分な時間を取り、質問等に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置。また運営推進会議や家族交流会、ご面会時等に、ご意見やご要望をお聞きする機会を持っている。	家族の来所時や運営推進会議等の際に利用者やホームの様子を伝え、意見や要望を傾聴するように努めています。また、年に1～2回家族交流会を開催し、家族から出された制度の疑問や意見についての説明を行っています。ホームの清掃について等の日常的な意見には、職員間で検討し取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・GH会議・ユニット会議時等、センター長や管理者と直接話ができるような雰囲気作りを心掛け、日頃からコミュニケーションを取るよう努めている。また定期的に面談も持っている。	日々職員が意見を出しやすい雰囲気を作り、会議や申し送りノートを活用し意見や提案を行っています。利用者の重度化に伴い、入浴や食事介助の方法についての意見が出され、ケアの質の向上に活かしています。1年に1回は施設長との面談を行い、個別に意見を聞くこともあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対して、トレーナー制度を取り入れている。また研修への参加や勉強会を行い、サービスの向上に繋がるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加。また外部研修を通じて、同業者との交流を図る機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の個別面接にて、可能な限りご本人の意向をお伺いしている。またご入居後も常にご利用者様の不安を傾聴し、安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前の個別面接にて、ご家族様が困っておられる事や不安に思っておられる事等お聞き対応している。ご入居後もご面会時等に日常生活の様子をご報告し、ご要望や問い合わせ等通し良好な関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様やご家族様の意向を把握し、出来る限りご協力出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	楽しい雰囲気作りを心掛け、共に楽しめるように努めている。また洗濯物等家事も積極的にして下さっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子をご報告し、ご家族様とコミュニケーションを取っている。また利用者様の事もお尋ねし、情報収集することによりケアに活かしている。常に利用者様を共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親類やご友人もご面会に来られている。ご家族様と共にお墓参りやご自宅へ帰られたりもされている。また電話の取り次ぎも行い、馴染みの方との関係も持って頂いている。来訪して頂きやすい雰囲気作りを心掛けている。	家族の協力を得て、自宅に帰ったり、墓参りや通っていた病院に行っています。また、友人の来訪時には、居心地良く過ごせる雰囲気を作り、再度来訪できるように配慮し友人等との関係が継続できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で体操をされたり、歌を歌われたり、脳トレ等され、ご利用者様同士会話も楽しんでおられる。リビングでの団欒を心掛け、日常生活の中で自然に関わり支え合って頂いている。また孤立される方の無い様に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからの、ご相談等ほとんどないが、今後そのような事例があれば対応に努めていきたい。		

東山ケアセンターそよ風（桜）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向をお伺いし、ご本人の意思が尊重出来るように努めている。	入居時に家族や本人からこれまでの生活や好みを聞いたり、アセスメント用紙に記入してもらっています。職員は情報を共有し利用者との関わりの中、言動から意向を把握できるよう会議で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご面会に来られたご家族様よりお聞きしたり、ご利用者様との会話の中より今までの暮らしの把握に努めている。またセンター方式等も活用し情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、体調の把握に努めている。また介護支援経過記録や申し送りノートを活用し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリング実施。カンファレンスやアセスメントも定期的実施。ご家族様のご意向もご面会時等にお伺いするように努めている。またご本人からもご希望をお聞きするように努め、ケアプラン作成に繋げている。	利用者の思いの基、医師の情報提供書や事前に家族の思いを聞いた上で担当者会議を開き、介護計画を立てています。3ヶ月毎に再アセスメントを行い介護計画を見直しています。アセスメントは、利用者のわかることやできる事についての変化を細かに捉えられるようにし、毎月モニタリングを行い、介護計画が現状に即しているか検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを実施したら、介護支援経過記録に印を入れている。また申し送りノートも活用し情報の共有を図り、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の病院の付き添い等お一人お一人その時々ニーズに応じて支援している。		

東山ケアセンターそよ風（桜）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加し楽しんで頂けるよう努めている。また近隣のお店での買い物等を通じ、地域との交流をして頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に内科や歯科の往診受けられている。また訪問看護も来て頂いている。ご希望あれば、訪問マッサージも受けて頂くことが出来る。医師や看護師との関係構築に努めている。	今までのかかりつけ医の継続も可能であることを入居時に説明し、現在は全利用者がホームの協力医をかかりつけ医としています。2週間に1回往診を受け、24時間連絡相談できる体制を整えています。毎週訪問歯科の来訪があり、必要に応じて治療や口腔ケアを受けることもできます。緊急時や眼科の受診などは、職員が受診を支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中はDSの看護師が勤務しているので、特変あれば相談したり診て頂いたりし、指示を仰いでいる。提携病院にも電話等で相談し指示を仰ぎ対応している。訪問看護師にも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はカルテを持参し、薬の説明書や診療情報提供書等確認して頂いている。また電話や面談にて情報交換も努めている。往診時等に相談や助言を頂き連携を持つように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご面会時や近況報告、電話時に、ご利用者様のご様子をお伝えしている。またご希望があれば他施設への入所申し込み等も行っている。ターミナルに関する話をする機会も持った。	入居時に重度化した場合にホームでできる事やできない事を説明し、今年度に医療連携体制を整えたこともあり、看取りの指針について説明し同意を得ています。利用者の状況の変化があれば、かかりつけ医や家族と話し合いを重ね、ホームで出来る支援を行っています。看取りの支援に向けて職員の勉強会等の体制を整えていきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや緊急連絡網を掲示しているが、定期的な訓練は実施していない。救命救急の講習を受講しているものもいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防避難訓練実施。利用者様も参加されている。	年に2回消防署の協力を得て、昼夜を想定し避難誘導や初期消火、通報等の訓練を行っています。地域の消防団と一緒にホームで地域の人の参加も得て防災訓練を行っています。また、地域の防災訓練にもできるだけ参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重する為に「受容」と「傾聴」を重視し対応している。また丁寧な言葉掛けにも努めている。	会議の中で接遇について勉強会を行い、言葉遣いや排泄支援の際の声の大きさ等に注意を払うように努めています。日々支援する中で、慣れ合いになったり不適切な対応となった際には、職員同士で注意し合ったり管理者が直接指導する等、繰り返し意識できるように取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定して頂けるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを大切に支援を心掛けている。歌がお好きな方には、一緒に歌を歌って楽しんで頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後の着替えの服を選んで頂くことによりおしゃれを楽しまれている。ご自分で選ばれない方にも身だしなみに配慮している。月1回訪問理美容来て頂き、ご希望があれば利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出前の日やおやつの日を決めている。また季節にあった食材を食べて頂けるように努めている。メニューのご相談もしている。食事の後片付けもお手伝いして下さっている。職員は利用者様と共に食事をしている。	法人の献立を基本としていますが、利用者の食べたいものを聞いたり冷蔵庫の中の物を見てその日の献立を決めています。重度化に伴い利用者のできる事は少なくなってきましたが、盛り付けや後片付け、テーブル拭き等できる事に携わってもらっています。行事を兼ねて外食したり、出前を取るなど、利用者の楽しみごととなるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量をチェック表に記入し把握している。野菜を沢山使用した食事の提供を心掛けている。お一人お一人の体調や状態に合わせた食事形態や介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして頂いている。また介助が必要な方には介助にて口腔ケアを実施している。夜間は義歯をお預かりし、義歯洗浄剤使用し清潔保持に努めている。		

東山ケアセンターそよ風（桜）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を常に心がけ、トイレ誘導が必要な方は定期的にトイレ誘導を実施している。	排泄チェック表を用いて個々の排泄リズムを把握し、日中は全員トイレでの排泄を支援しています。個々にあった間隔や仕草を見てトイレに誘導したり、自立度に合わせてパッドや紙パンツ等を選び、現状維持できるように取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳を使用したジュース等をお茶の時間にお出しし、便秘の予防に努めている。また体操等体を動かす機会も持っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のペースに合わせて、その都度声掛けを行っている。午前・午後共に入浴して頂けるように配慮している。	毎日午前10時から午後4時までの間に入浴の準備を行い、利用者は週に2～3回入浴できるように支援しています。職員と会話をしながら、一人ひとりゆっくりと入ってもらっています。拒否の見られる場合は、声をかけるタイミングや人を変えるなどの工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングで傾眠されている方には声掛けを行い、ゆっくりと居室で休んでも頂けるように配慮している。また室温にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書がいつでも確認できるようにカルテに挟んでいる。また服薬の有無は一覧表で確認出来るようにしている。服薬変更時は申し送りノート等で情報を共有している。排便状況に応じ下剤の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出前の日・おやつの日設定。お誕生日会やその他行事も楽しんで頂く機会を持っている。洗濯物たたみや干しも毎日して下さっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	祇園祭の鉾見学ドライブや外食レク実施。年1回日帰り旅行実施。ご家族様にもお声をお掛けしている。またご家族様と外出される機会も持っておられる。花壇への水やりもされている。	花見や紅葉狩り、初詣等、季節の外出行事を企画し、家族にも声を掛け一緒に外出を楽しんでもらうようにしています。日々の散歩や買い物は週に1日程度ですが、玄関先のベンチでの外気浴や花壇への水やりなど、外に出る事ができるように支援しています。	

東山ケアセンターそよ風（桜）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持されていない。近隣へ買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じてお電話をおかけしお話しして頂いている。またご家族様からのお電話も取り次ぎお話されている。手紙が届いている際はご本人様にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	障子やカーテンで光を調整。室温にも配慮している。ホワイトボード活用し行事や日常の事を記入。また廊下には写真を掲示している。リビングとキッチンが面しており調理の音や匂い等の生活感も感じて頂いている。	ホームの入り口に季節の花を飾ったり、各居室の表札に季節が感じられる貼り絵を飾っています。リビングは障子で陽の光を調節をしたり、温湿度計を置き快適に過ごせるように調整しています。2つのユニット間の扉は開放され、自由に行き来できるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子等ご自分のお好きな場所で過ごされている。また気の合う利用者様同士座って頂けるように座席の配慮行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご趣味の物やご自宅でご使用されていた家具や装飾品等をお持ちになられている。	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうように説明し、テレビや仏壇、ソファ等を家族と相談しながら生活しやすいように配置しています。壁に沿って備え付けの棚があり、鏡や写真などを飾ったり、趣味の本や家族からの手紙等が置かれ、落ち着いて過ごせる空間作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに「お手洗い」と目印をつけている。居室入口横には、各自の名前が記載され確認して頂けるようになっている。建物内はバリアフリーであり、杖や車椅子を使用し各自の身体機能を生かして過ごされている。		